

氏名	松尾 瑠美
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6979 号
学位授与の日付	2024 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Frailty and all-cause and cause-specific mortality in Japan (日本におけるフレイルと全死亡及び死因別死亡の関連について)
論文審査委員	教授 神田秀幸 教授 光延文裕 准教授 久松隆史

学位論文内容の要旨

フレイルは様々な健康リスクの上昇を引き起こす報告がある。しかし、フレイルを評価する一貫した方法はまだない。また、日本におけるフレイルの長期的な予後や死因別死亡との関連についての研究はほとんどない。本研究は、基本チェックリストを用いてフレイルを評価し、長期的な全死亡及び死因別死亡との関連について研究した。

2006 年度もしくは 2007 年度に岡山市基本健康診査を受診した 65 歳以上の 43,312 人を対象とし、2016 年度末まで生存状況を追跡した。フレイルと全死亡および死因別死亡との関連を評価するため、原因別 Cox 比例ハザードモデルを用いて、年齢や基礎疾患などの交絡因子を調整し、ハザード比 (HR) を推定した。

全死亡の調整済み HR (95%信頼区間) は、プレフレイル群で 1.34 (1.27-1.41)、フレイル群で 2.22 (2.11-2.33) であった。死因別死亡に対するプレフレイル群とフレイル群の HR は、心血管死亡では 1.35 (1.21-1.51) と 2.55 (2.30-2.82)、呼吸器疾患死亡では 1.63 (1.43-1.86) と 2.99 (2.64-3.39)、がん死亡では 1.23 (1.12-1.34) と 1.39 (1.26-1.53) であった。前期高齢者 (65-74 歳) 及び女性は、後期高齢者 (≥ 75 歳) 及び男性よりも効果推定値が高い傾向を認めた。

本研究により、プレフレイル及びフレイルは、全死亡と死因別死亡のリスクを高める可能性があり、死因別死亡では、特に心血管疾患と呼吸器疾患との関連が強くみられることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は、岡山市基本健康診査を受診した 65 才以上の高齢者を対象として、国が行う基本チェックリストにて把握したフレイルと総死亡、死因別死亡との関連を検討した。プレフレイルおよびフレイルは総死亡、心血管死亡、呼吸器疾患死亡、がん死亡と正の関連があることを明らかにした。審査員から、フレイル評価指標の選定、ベースライン時の既往症の扱い、前期高齢者が後期高齢者よりハザード比が高かった理由などについての質問がなされた。回答として、行政情報の有効活用の一環としたこと、がんや脳心疾患の既往は分析に考慮されていないが健診受診者であるためこれら疾患の影響は少ないこと、生存者バイアスによる影響が生じている可能性などの回答がなされた。わが国のフレイルと総死亡、死因別死亡との関連について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。発表は的確で、周辺知識の学習も十分に認められた。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。